

# 山口大学大学院医学系研究科 新任教授ごあいさつ

## 第7回 泌尿器科学講座教授 白石 晃司



令和4年8月1日付けで、泌尿器科学講座教授を拝命いたしました白石晃司と申します。山口県医師会の先生方に、新任のごあいさつを申し上げます。着任後半年が経過いたしました。慣れない教室運営に右往左往しながらも、徐々に新しい風が吹き始め、本原稿を執筆させていただいている啓蟄の時節のごとく、臨床、研究及び教育面において教室員の活動力のポテンシャルを感じ始めています。

私は萩市の出身で平成元年に山口県立萩高校を、平成7年に山口大学を、平成13年に山口大学大学院医学系研究科を卒業いたしました純粋な山口県人です。「宇部医大」という何でも治せる病院があるということ、幼少時から教師や両親から聞かされてきました。高校3年の7月に俵田翁体育館にて卓球の県大会が開催された際の朝のランニングの途中で、真縮川の水面に映る白い巨塔を発見しました。入口に「山口大学医学部附属病院」と掲げられ、受験とは程遠い高校生活を送っていた私は、恥ずかしながらその時に初めて「宇部医大」が山口大学医学部附属病院であるこ

とを理解しました。その約半年後に、そこで医学の道を歩み始めたことは、不思議な縁と感じています。長年畏敬の念を抱いていた「宇部医大」＝山口大学医学部の泌尿器科教授としての責任ある立場に立たせていただいたからには、山口県の泌尿器科・腎不全医療を支えるのみならず、松陰先生に負けず、全国及び世界に情報発信し、後進の育成に励み、教室の発展を目指していきたくと意気込んでいます。

在学中に未解明な点が山積みの精子形成の神秘にとりつかれ、生殖医療の発展に貢献したいと一念発起し、故 内藤克輔 教授が主宰されていた山口大学泌尿器科学教室に入局いたしました。平成13年に精子形成におけるアポトーシスに関する研究にて医学博士をいただき、平成16年から3年間アイオワ大学薬理学にてポスドクとして、主にライディッヒ細胞を中心に生殖内分泌の基礎研究に従事しました。帰国後、平成23年に治療が不可能とされていた非閉塞性無精子症（NOA）に対する「サルベージ内分泌療法併用顕微鏡下精巣内精子採取術（micro-TESE）」を報告し、同疾



患からの世界初の精子採取に成功し、国内外からの男性不妊患者さんの受診の爆発的な増加につながり、同時に全国規模の医師主導試験をリードして参りました。

男性不妊症の原因で最も難治である非閉塞性無精子症（NOA）は、micro-TESEによる精子採取率は、高々30%程度であり、精子採取不可能な70%の患者さんには不妊治療の終焉を告げなければなりません。NOAにおいてはネガティブフィードバックにより下垂体前葉からのゴナドトロピン分泌は既に亢進しているため、内分泌療法は適用されないということが常識でした。私はin vitro及び動物実験にて、高ゴナドトロピン下においてもhCG投与によりライディッヒ細胞は刺激され、テストステロンを始めさまざまな成長因子が分泌されることを見出して参りました。Micro-TESEにて精子採取不可能であった症例を対象に、サルベージ内分泌療法を開発し、2回目のmicro-TESEにて精子採取が可能であった世界で初めての報告を行うことができました。自身の症例のみならず、全世界からサルベージ内分泌療法による出産例のご報告をいただくことで、研究に対するモチベーションを維持して参りました。一方で、私たちは男性不妊治療で世界をリードし続けるという自負を持ち、継続的に新たな情報発信を行うという義務も感じております。現在は次世代シーケンサーを用いたヒト精巣のトランスクリプトーム解析などを行い、そのような基礎研究に裏付けられた、新たな診断法や治療法の探索に日夜励んでおります。

少子化において小児医療の需要は減るのでしょうか？組織の繊細な取り扱いと6-0や7-0といった細い縫合糸を主に用いた、正確な運針の上に成り立つ小児泌尿器科手術は、一般的な泌尿器科手術に存在しない技術を要し、全国的にも大学病院や一般病院での施行は倦厭され、大部分の症例が子ども専門病院で行われている現状です。つまり、小児泌尿器科医療は少子化だからこそ、一部の病院に集約されている現状です。中国四国地方に子ども専門病院が存在しないことに着目し、この分野に邁進することも山口大学の使命と感じました。ポスドク3年目には帰国を見据え、米国

の小児泌尿器科のハイボリュームセンターを転々とし、修行して参りました。帰国後は尿道下裂手術のパイオニアである、あいち小児保健医療総合センターの谷風三郎先生のもとで研鑽させていただき、平成21年に助教として帰学後から小児泌尿器科診療を本格的に開始いたしました。少子化が加速する時代だからこそ、山口大学において集約的に小児泌尿器科診療を遂行して参りたい所存でございます。大学の泌尿器科外来は少子化を払拭するかのよう子どもたちで溢れかえっています。

この四半世紀で泌尿器科のメジャーな癌関連の手術は開腹から腹腔鏡、そしてロボット支援手術へと劇的に変化してきました。多くの泌尿器科医の労力はそれらの新規技術の習得に明け暮れていました。山口大学でロボット支援手術が開始されて、ちょうど10年が経過しました。前立腺癌、腎癌及び膀胱癌における制癌性は、ほぼ全国的にプラトーとなり、次の癌治療に求められるものは、患者さんのQOLの向上と考えています。多くの大学病院が癌診療のみで終始されている状況の中、山口大学では血管外科的要素を含んだ腎移植、マイクロサージェリーが中心の男性不妊手術、繊細な技術が要求される小児泌尿器科手術など、多種多様な手術を行っており、性機能障害や男性更年期障害などメンズヘルス診療も強化してまいりました。これらの異なる分野の有機的な融合により、新規術式の開発や患者さんの新たな管理法が生まれ、これからは山口大学が本邦及び世界の泌尿器科癌診療を牽引していけるよう情報発信を行っていきます。一方で、技術の発展は安全性の担保が必須であることと、各科の先生方の卓越した技術を習得したいと感じ、診療科の枠を超えた横断的な知識と技術の共有を図るために、私がセンター長として低侵襲手術センターを発足させていただきました。診療科間でも切磋琢磨し、山口県全体の鏡視下手術のレベル向上に寄与できればと考えております。このような活動が若手医師の山口県への定着促進という副次的な効果にも期待しています。

山口大学泌尿器科はタンパク尿の評価から腎生検、血液透析や腹膜透析及び腎移植などの腎代替

療法までを含む県内の腎不全医療を牽引して参りました。泌尿器科医にとってはややオーバーワーク気味ではありますが、腎疾患を包括的に診るという意気込みとプライドをもって診療にあたっております。腎移植は年間20～30症例程度行っており、中四国においてはトップレベルの症例数となっております。腎不全診療のレベルアップは多職種の連携が必須です。これにつきましても各診療科、看護師、臨床工学技士等を含めた診療科横断的な診療体系を構築していきたいと考えております。

「異次元の少子高齢化対策」という言葉を最近のニュースでしばしば耳にします。子作り世代への経済的支援や就労環境の是正などが取り沙汰されている中で、実際に生殖医療やメンズヘルス診療を担っている私たちに、政府のほうからのアプローチは皆無です。少子高齢化社会はさまざまな側面から対応されるべきわが国の喫緊の課題です。不妊症を治療する、妊娠を考えている人に医療資源が身近にあることを感じてもらう、そして作れる人には何人も作ってもらう。これらのことは医学的に十分に介入可能な私たちが提供できるアプローチです。定年延長という言葉をししばしば耳にするように、65歳は高齢者ではなく、準高齢者として75歳までは労働力の提供が求められています。前立腺癌にだけ注意すれば、血清テストステロン濃度の調整は、男性を健康にし、活力が増し、国家的な経済発展にも十分に寄与することができます。医療者として、泌尿器科医として、そしてアンドロロジストという専門家として、この大きな社会問題に対応及び提言を行って参りたいと考えています。

松陰語録に「まことに読みて之れを行わば則ち千万世といえども得て尽くすべからず」という言葉があります。これは萩市立明倫小学校6年生2学期に唱える言葉です。私は「臨床をして発表し反省せざるは、臨床をせざるがごとし」と考えています。私たちが日ごろ、患者さまに行った治療をデータ化し客観的に見直し、学会発表や論文により公表し、批判を仰ぎ受容することで、自分たちの特徴や弱点、そして新たな発見があり、次の活路が見出されます。臨床現場から生じた疑問点を探求する姿勢は、患者さまを診療するのであれば、一生持ち続けるべき態度であると考え、臨床及び基礎実験に注力していきたいと考えております。私の在任期間は残り13年しかありません。次世代に活躍する勇者の輩出、つまりサステナブルな教育を最重要課題として捉えています。働き方改革について、就業時間云々など表面的なことのみが議論されています。外からの強制より、内因性のモチベーションから達成される仕事量は底なしです。個人個人の能力及び体力を見極め、どのようにすれば最大限の可能性を引き出せるような指導を行っていきけるか模索中であります。

山口県医師会の先生方の中には、私たちがポリクリや研修医時代にお世話になった方（お世話をした方も！）が多く在籍していらっしゃいます。私たちの直属の先輩として、引き続き一層のご支援及びご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害  
保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

**あなたにしあわせをつなぐ**

損害保険ジャパン株式会社 代理店  
共栄火災海上保険株式会社 代理店

**山 福 株 式 会 社**

TEL 083-922-2551